

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25221002	研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
研究課題名	シナプス可塑性・神経機能と神経発達制御における IP3 受容体の役割	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	御子柴 克彦 (理化学研究所・脳科学総合研究センター・チームリーダー)

【平成 28 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>研究代表者は IP₃ 受容体の発見以降、25 年以上の長きに渡り IP₃ 受容体の分子神経化学分野の最先端を切り開き、本研究の開始から 3 年間で、研究ツールの開発、細胞内シグナリング、神経発達形成に独自の研究を推進してきた。</p> <p>特に統合失調症関連分子との相互作用、多動性行動異常、心血管病の酸化還元レベル、無汗症遺伝子 (single nucleotide variant) との相関等の病態を解明したことは高く評価できる。計画の中で一部進捗の遅れも見られるが、今後 IP₃ 受容体の多岐に渡る役割の解明が十分に期待でき、その全容解明へ近づくことができると判断する。</p>	